

シリーズ

私の森語り

もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



「里山再生、地域の力で次世代へ」

NPO 法人
さんたろう倶楽部
事務局長 鈴木 茂信

■自己紹介

令和二年からNPO法人さんたろう倶楽部（以下「さんたろう倶楽部」という。）の事務局を務めています。会社員時代には、毎年、立山・薬師岳・白山等に登山したほか、野山の植物や生き物を紹介する富山県自然解説員として活動を行っていました。その後、溪流釣りが高じて、イワナのえきになる河川水生昆虫について研究したいと思い、親の介護という事情も重なり、勤務していた一般企業を定年前に退職し、富山大学理学部大学院に入学し、二年間の研究生生活を送りました。卒業後は縁があつて里山整備を主とするさんたろう倶楽部に関わることとなり、現在に至っています。

■活動内容

さんたろう倶楽部は、富山県内の里山再生活動として、富山市と「富山市市民参加の森づくり促進事業の実施に関する協定」を締結し、富山市を中心に一七地区の森林整備を実施しており、活動エリアは約一一〇ヘクタールです。また、四月には広く市民に呼びかけて、竹林伐採ボランティア事業として、約二〇〇ヘクタールの面積を二五〇名規模で実施しました。この活動は竹林による侵食が拡大してきた平成十九年頃から続けられていた事業です。竹林を皆伐した後は、ほぼ十年で約二、〇〇〇本の落葉広葉樹類を植樹し、現在では元の森に近い状態に再生されてきました。

また、平成二十二年から続けている「国民参加の森林づくり」では、これまでの協定地域に加えて、令和四年度より新たに北アルプスの立山弥陀ヶ原・天狗平での「立山天空の森整備」活動の協定を富山森林管理署と締結し、緑化復元事業で繁茂したミヤマハンノキ等の除伐を行っています。



標高 1,650m 立山天空の森整備

（恐らく全国の協定箇所の中では最も標高が高いと思われます。）

地域連携としては、学生との竹林整備体験を実施しています。特に子どもたちはノコギリで竹を切る経験がほぼなく、竹が倒れると大きな歓声が上がります。日常的に竹林整備をしている私どもとしては非常に新鮮な光景です。また、企業の森づくりに関しては、機材や専門人員の支援、里山の自然解説等を実施しているほか、当倶楽部が主な活動エリアとしている呉羽丘陵遊歩道の樹木調査、竹林の黄変についてのプロット調査等を実施するとともに、呉羽丘陵のウォーキングにも活用できるとする季節の花々や特徴などを紹介した冊子（下段参照）も発行しています。

■メッセージ

竹林も手入れがなされず放置されれば、野生動物のすみかになったり、広葉樹を枯らして土砂崩れの原因となるおそれがあります。今後多くの方に里山整備へのご協力を呼びかけ、竹の利活用ももっと進めたいと思っています。

モウソウチクはタケノコや水煮、メンマの原料だけでなく、アート・工芸品などに利用できるほか、竹チップは、防草や竹柵へ利用できます。また、竹が腐ればカブトムシが産卵して新たな生命が誕生する手助けとなるなど、用途は無限にあります。ぜひ里山に遊びに来てください。

■連絡先

富山市西金屋六七八番地

富山市くれば山荘

〇七六四三三二一三六

info@kintaroclub.net



歴史と自然が交差する呉羽丘陵の魅力

～里人の 袖ふれあふ 呉羽の嶺へ～



2024.4.4 月 松と栗の森を歩く

富山県森林管理署 さんたろう倶楽部